

市民活動団体と鎌倉市による協働事業
平成22年度実施分

事業評価

鎌倉市協働事業推進協議会

平成22年度に実施された協働事業の事業評価

《概要》

平成23年6月28日（火）午前10時より、鎌倉市役所第3分庁舎講堂において「市民活動団体と鎌倉市による協働事業実施報告会」（平成22年度実施分）を開催し、協働した団体及び担当課から各事業の結果報告が行われました。

これらの報告を受け、同日午後2時より「鎌倉市協働事業推進協議会」を開催し、それぞれの事業評価を行いました。

協議会における事業評価の内容は以下のとおりです。

なお、評価を行った協議会の会員は次のとおりです。

《鎌倉市協働事業推進協議会 会員》

代 表	小磯 一彦	鎌倉市市民経済部長
会 員	瀧澤 由人	鎌倉市経営企画部長
会 員	廣瀬 信	鎌倉市総務部長
会 員	出川 克己	特非) 鎌倉市市民活動センター運営会議 理事長
会 員	渡邊 公子	同上 事務局長 (所用により欠席)
会 員	松本 陽子	同上 協働事業推進部会リーダー
会 員	深江 南子	同上 協働事業推進部会副リーダー
臨時会員	土屋 志郎	鎌倉市景観部長
臨時会員	佐藤 尚之	鎌倉市こどもみらい部長
臨時会員	石井 和子	鎌倉市健康福祉部長
臨時会員	相澤 千香子	鎌倉市環境部長
臨時会員	小村 亮一	鎌倉市教育委員会生涯学習部長

《実施事業》

1	不用品登録制度	(3ヵ年実施)	2 P
2	ハイキングパトロール事業	(3ヵ年実施)	3 P
3	落書きのないまちづくり事業	(2ヵ年実施)	4 P
4	子ども会館運営事業	(2ヵ年実施)	5 P
5	WE LOVE 若宮大路事業	(単年度実施)	6 P
6	失語症等成人中途言語障害者への支援事業	(2ヵ年実施)	7 P
7	図書館とともだちになろう (図書館振興) 事業	(3ヵ年実施)	8 P
8	玉縄民俗資料館のリニューアル事業	(単年度実施)	9 P

1 不用品登録制度

★評価の高かった点

- ・不用品登録事業は良い活動であり、潜在的な需要もあり、全体としていい事業である。
- ・登録件数・成立件数のV字（平成22年度に10年前と同等件数に）回復からわかるとおり、まだ必要とされている。
- ・22年度までの経過としては、一定の成果があがっている。3年間たって、スキームをつくったということは評価できる。

★評価の低かった点

- ・一件成立するのに1500円（90万÷600件）かかっている。
- ・この事業がどのくらい市民・住民に伝わっているか、疑問がある。
- ・どういう目標に対してどれだけ達成したかという点が大切であるので事業の目標を定めてほしい。

★今後に向けての課題点

- ・コストの検証の必要性。（協働事業実施前と市直営とでコスト面はどうか）
- ・どこに目標をもって、継続していくのか。事業目標の設定が求められる。
- ・この事業をつづけていくという価値観を持って行った方がいい。
- ・環境の方とやってはどうかという話が出たが、環境部はどう考えるか。
（環境部としては、リユースの観点からどういうふうに関わっていけるか検討していくつもりである。なお、費用対効果の観点から、果たして環境部で協働してやるのがいいのかなどはのちのち議論となる。）
- ・広報活動・宣伝活動をしたらもっと利用が増えるのではないかな。
- ・お金の問題も含め、もう一度中身を見直していきたい。

《総体的な評価》

不用品交換の需要があり、件数回復も見られ、総体的に良い事業である。

ただし、広報活動などの課題も見られる。今後に向けた課題点も踏まえながら、目標を定めて事業を進めることを期待したい。

2 ハイキングパトロール事業

★評価の高かった点

- ・観光コースの保全是、やらなくてはならないことであり、その点で、この事業は活かされていた。
- ・改善されたという実績は事実であり、市としても成果があったと評価している。
- ・活動しているみなさんは熱心にやっている。また、風致保存会という組織だからこそ継続的に実施できている。

★評価の低かった点

- ・民有地については、課題がある（所有者の了解を得ずに整備ができない）ので行政の積極的なかわりがもとめられる。
- ・事業にかかわる人たちがほとんどをボランティアで実施しているということであるが、人件費など必要な経費は出すような取り組みに改善してほしい。ボランティアで活動してゆくのはおかしい。そういう形では協働でやらなくてもよいのではないか。

★今後に向けての課題点

- ・公益法人である風致保存会が協働相手でよいのか、疑問がある。
- ・契約内容は、『ハイキングパトロールコースを見てまわる』だが、簡単な撤去もその際にボランティアで行っているという事実がある。
- ・協働とボランティアの違いの理解を深めてほしい。

《総体的な評価》

事業報告の中で、活動はほとんどボランティア（無償）で行っているとの話があったが、協働事業の在り方という点でこうした形が協働といえるか疑問がある。今後、この点の検討を要する。

協働事業そのものについては、ハイキングコースで怪我をした人がいたことを発端に始まったものでその必要性もあり、評価できる事業である。

3 落書きのないまちづくり事業

★評価の高かった点

- ・落書きや張り紙に対しての専門性、機動性を持って実施できており、いい事業である。
- ・張り紙については、すぐはがすということで、とても効果が出ている。
- ・明らかに落書きの数が少なく、繰り返しの活動を続けている成果が出ている。
- ・街中の張り紙は10年前には数千件のレベルだったが、今はなくなっている。
- ・企画の段階から市と団体とが一緒にやっており、お互いの特性が活かされている。
- ・条例を作ったことによって、落書きをされた側の所有者の責務も明らかになってきた中で、パトロールしている市民活動団体と行政が連携を取り、管理者・所有者に通知して消させる等の枠組みが基礎のところできている、そう意味での成果は上がっている。

★評価の低かった点

- ・ボランティアで（経費を考慮せず）行っている面があるように思える。
- ・人件費の扱いについては、きちんとすべきである。

★今後に向けての課題点

- ・団体がさらに上を目指しているように、犯罪防止活動をきちんとしないという課題は残っている。
- ・今年度が3年目であり、今後どうするかが課題である。会員の8人で実施しているが、皆さん高齢であり、若い担い手の育成が必要である。
- ・この環境を保つためには、行政の関わり方がもっと大事になってくる。

《総体的な評価》

この事業は、活動の成果も顕著であり、団体と市との協働における相互連携もスムーズに行われている。事業はいずれの点でも高い評価ができる。

4 子ども会館運営事業

★評価の高かった点

- ・事業開始当初に比べ市と団体との話し合いの場が持たれ課題解決できるようになった。
- ・お母さんを中心とした市民活動団体が、この事業運営に関わるのは良いことである。

★評価の低かった点

- ・事業の枠を決める協定書作成において双方の認識のズレが見られ、2か年の事業実施の過程で解消されていないところがある。
- ・評価シートの作成において協働がうまくいっていないところがある。
- ・この協働事業の趣旨として、事業を実施していく上で市民サービスの受け手の反応が重要であるが、その視点が欠けている。
- ・事業報告の印象として、事業の枠組みとコストがあっていない。
- ・今のフレームでいくといい形が生れない。新しい方法を考えた方が良いのではないか。協働は対等関係のはずが、バランスの不一致が感じられる。

★今後に向けての課題点

- ・利用者の数の低下＝評価が下がるということではなく、利用者の声や子どもたちの受け止め方を数と合わせて評価していく必要がある。
- ・今までの経緯を総括することも必要であり、来年度以降どうするかを踏まえ、再度内容を精査する必要がある。
- ・子ども会館運営というなかで、今後その運営をしていく一つの方向性とする、市民協働事業の形が今後とも有益かどうか、全体の評価も含めて、次のありかたを考えていく必要がある。
- ・担当課と市民活動団体だけでは話し合いがなかなかうまくいかないときは、市民活動課や協議会の一部が話し合いの場に入っていきたい。

《総体的な評価》

事業全体として、協働がスムーズに行われていない印象がする。今後に向けて、市と団体相互の認識の一致と共通理解の形成に努める必要がある。

また、子ども会館の運営形態について、どのような形がよりよいのか今後に向け内容の精査が求められる。

5 WE LOVE 若宮大路事業

★評価の高かった点

- ・目的が達成され、目に見える成果も出ているので、良い事業であった。
- ・創意工夫により、材料費等のコストがかからなかったことは評価できる。
- ・景観協議会設立へ向けてのステップになった。

★評価の低かった点

- ・予算をゼロでなく、交通費や人件費を組み込んだの協働事業の実施ができればよかった。

★今後に向けての課題点

- ・この経験を活かし、今後に繋げてもらいたい。

《総体的な評価》

この事業については、事業目的も達成され成果も出ている。

また、創意工夫のなかでコストをかけずに実施できたことは評価できる。

さらに市の進める景観協議会設立に向けても大いに寄与するところがあった。

なお、予算ゼロという内容であったが、必要経費があってもよいのではと思われる。

6 失語症等成人中途言語障害者への支援事業

★評価の高かった点

- ・行政サービスの隙間をうめる、協働事業の見本のような事業である。
- ・新しい公共を作り出すということが大事な視点とされる中で、この事業はまさしくそういう事業である。
- ・福祉は制度と制度の狭間や行政と現実の狭間などがある。具体的には高次性機能障害は、医療と障害の隙間である。それを埋めることを実現したのがこの事業である。
- ・なかなか手を差し伸べることが難しかった、医療とその行政の連携、医療と障害の連携という課題の中で、この団体が、実際に医療の場からそういう人たちの訓練を行ったり、家族を含めた会合をもつことのなかで、お互いに支援をしあって状況を改善していく、そういう動きをしてきたことが、うまくマッチングができた。
- ・障害者福祉課が相談事業の主催者となり、実際の相談は湘南失語症の会がやることで信頼性を補え、良い協働事業となっている。

★評価の低かった点

- ・3年待たなくても、市として事業化に向けて進んでもよかったのではないか。
 - ・今後、事業を継続していく資料として、利用者の率直な意見を知りたい。
- そのためのアンケート調査などは行政側がサポートすべきと思われる。

★今後に向けての課題点

- ・出てきた課題に団体は積極的に取組み、行政も団体ができないことを行い、さらに協働を深めてもらいたい。
- ・協働事業としての仕上げをして内容を充実させ、行政は事業化を考えていくことが課題である。
- ・団体には、協働による事業継続について、行政と市民の繋ぎを行いつつ市民の中に入り込んでやってもらいたい。行政には、役割責任をもって運営していくことで事業化を進めてもらいたい。

《総体的な評価》

行政サービスと市民ニーズとの隙間を埋めながら、うまく役割分担しつつ取り組んでいる事業の形態は高く評価できる。

今後、継続的な事業として内容を充実してゆくことでさらによい事業となると期待できる。

7 図書館とともにだちになろう（図書館振興）事業

★評価の高かった点

- ・団体に熱意があり、イベントの多数開催や多くの人を集めて事業を実施したことはよかった。
- ・事業全体として多くの実績や成果を出していること、またこれからのやるべきことを残していったのではないかと評価できる。

★評価の低かった点

- ・団体の思いと行政側の事業への対応（事業に位置づけ）が一致しなかった点をしっかりと話し合うべきであった。
- ・おおもとにある「図書館とはどうあるべきか」ということの整理がされないなかで、お互いの考えがまとまらなかった点が見受けられた。

★今後に向けての課題点

- ・市立図書館の事業に合うのかという点については疑問があり、その辺りで行政側と市民活動団体との温度差があったと思う。今後の図書館の在り方についての課題である。
- ・3年が経過して、活動を続けたいという思いは伝わった。ただ、いい事業＝続けられるということではない。担当部門としては、その他全体の事業との兼ね合いのなかで継続事業化を断念したのであろう。いい事業ということと継続できる事業とは違うので、行政全体の業務を評価して、そのなかでどれくらいの位置づけかという評価をしないと、継続かどうかの判断はできないということを理解してほしい。
- ・熱意がある団体であり、実績もあげているのだから、今後も違う形で続けていただきたい。

《総体的な評価》

協働事業を実施する過程で、事業の継続について団体の目指すところと行政側の考えている図書館サービスとの間で十分な共通理解が醸成されてこなかった面が窺える。

ただし、活動団体としての熱意は高く多数のイベントや事業を展開して、多くの成果と将来的な展望も見受けられる点が評価できる。

8 玉縄民俗資料館のリニューアル事業

★評価の高かった点

- ・成果がわかりやすく、事業としてはよかった。
- ・地域が動いている活動で、いいまちづくりに繋がっている事業で成功と言える結果である。
- ・助成事業ではないかとの意見もあるが、助成事業で行った場合「歴史のきちんとした評価も難しい。」文化財課が歴史の評価をし、協働したことで、正確にできたのではないかと思う。助成事業でもよいということも協働事業の結果解ったことでもあり、協働した意義がある。

★評価の低かった点

- ・協働でなく助成事業でもよかったと思われる点があった。協働の形でなくても資金と場があればということにならないように、お互いの理解を深める必要があったのではないか。

★今後に向けての課題点

- ・この協働事業での成果を、今後はどうそれを公開し、続けていくかが課題である。

《総体的な評価》

この事業は、協働事業として行うことで事業の内容（歴史的な検証等）も確かなものとなり、成果も見えるものとなっており、成功といえる結果である。